

発表者	内 容
グループ 1	<p>YES・NOのYESがかなり多かったので、3人ずつに分けて話し合えば、自分なりの意見や考えが出てきたのではないかという意見があった。</p> <p>クロスワードゲームについては、おもしろい手法だった。ただ、似たような意見がいっぱい出たが、それを聞いて自分のシートに書き足してしまう児童が多かったので、ここは書き足さずに思考を巡らせながら聞く方がよかった。また、ただ聞くだけではなく、シート（付箋）を分ける、書く内容、考えを1つずつにするとわかりやすかったのではないか。</p> <p>問1で、友達を放っておけないという意見の子に、時間配分を聞いたのは有意義だった。特に、〇〇さんの意見は、心豊かでより具体的にイメージがわく意見だった。</p> <p>単元計画が多岐にわたっている。備蓄倉庫を見る、防災の人の話を聞く、家族と話し合いの場を持たせるなどよかった。</p>
グループ 2	<p>クロスワードゲームのYES・NOの答えを、子ども達がどう分かれるか予想するのは難しいが、はっきり分かれた方が話し合いが、より活発に出るだろう。今回、問1で「待つのはいけない」という流れになってからの、問2になっていたのも、「家の人を待つ」という意見がなかったのではないか。</p> <p>問1の時に、逃げる時に声を出しながら逃げるという方法もある。また、その場に先生はいませんなどの条件を出すと、その後の話し合いや授業の展開が変わってきたのではないかという意見もあった。</p> <p>問2の方では、〇〇さんが「自分の避難場所に行く」という意見を取り上げて「自分の」に焦点を当てて、話を広げていくとまた別の展開になっていたのではないか。</p> <p>家族は避難場所に行っているだろうではなく、必ず行っているようにしていかなければいけない。</p> <p>最初の場面で釜石のことを出したが、以前は「奇跡」とも言われていた内容なのに、子ども達の反応が予想より少なかった。具体的な数字を出して他の地域と比べさせ、そのギャップを見せれば、よりこの話に興味関心が沸いたのではないか。</p> <p>また23mの津波と言っても、子ども達はピンとこないもので、例えば、校舎の高さと比較などするとよかったのではないかという意見があった。</p>

指導助言
教頭先生

社会科は、社会生活を勉強していく学習である。よりよいくらし・よりよい社会をつくっていくために、互いに社会を構成している人達がどう関わり合っているのかを知ることが大切。

しかし、子ども達は「くらしを守る」というと、自分とかけ離れたところ（火事からくらしを守る＝消防署）（事故や事件からくらしを守る＝警察署）など、他の人達（専門機関）に「守られている」任せてしまいがちである。そうであってはいけない。自分と、社会とのつながり（どう関わっているか）、自分事の学習をしていくことが大事。そのことをルナ先生は、意図されていた授業だった。また、クロスワードゲームは、具現化するために意味があったと思う。自分の考え・意見をはっきりさせる手法であった。社会科の授業だけではなく、他の授業でも取り入れていくとよい。

学習課題に入っていく前に、もう少しスッと子どもの思考の流れにそったものがあつたらよかった。釜石で子ども達のほとんどが助かったということが、あまり疑問として入ってこない、強い不信感に感じられなかったので、学習のめあてが明確になっていきにくかったのではないか。

例えば、映像を見せた後、地図で犠牲者数などを表示して、釜石の犠牲者数との対比を試みる。そして「なんで？」という疑問がわく。そこから、学習の課題に入っていくことができる。その疑問から釜石のように犠牲者を出さないために、私たちはどうしたらいいだろうと子ども達に下ろしていく。そのことを考えるためにクロスワードゲームを紹介するとよい。

釜石の人達は、奇跡と捉えていない。それは昔から伝えられている「あること」があるといって「津波てんでんこ」の話をもっと最後にする方法もある。

今日の授業は、明日の授業参観につなげるような、問題提供をたくさんしてくれた授業であり、保護者への啓発になるすばらしいものだった。今後の他の先生の授業に、ぜひ生かしてほしい。

指導助言
校長先生

防災教育の取組みに対して、この単元前後を通してしてやってくれてありがたい。モデル地域として指定されたことを、1つのいきっかけとして防災について前向きに取り組んでほしい。

今回、子ども達の話し合いが中心だったが、防災教育（特に、避難する時）は「自分の命は自分で守るためにはどうしたらいいか」想像する力を働かせることが大事である。

この力は、放っておいても付かない。今回の授業のように、話し合うことで「こうなるかもしれない、ああなるかもしれない。」と想像できるようになると思う。4年生では、また自分たちだけで話し合うことは難しいので、先生が少し入って、うまく話し

合いができるように発達段階に応じてやっていくことで、5、6年になると、だんだん自分たちだけで話し合いができてくると思う。

参観に来てくれた中学校の校長先生も、小学校から発達段階に応じた話し合いの指導できているということがわかり、大変参考になった。この小学校での取組みが、中学校できちんとした話し合いができるようになっていっているおかげだと言われていた。

また、少数派の意見を大切にしようとする雰囲気があるのが大事である。今回、問1は、YESが2人しかいなかったが、その子達の意見を大事にしながら、自分の意見を言う気持ちが育っているので感心した。